

SAPPORO

ACTION PLAN!

第2次 札幌市
まちづくり戦略ビジョン

アクション プラン 2023

令和5年度～9年度

ACTION PLAN!

秋元市長

令和5年5月に
3期目の
札幌市長に就任

ギュー太

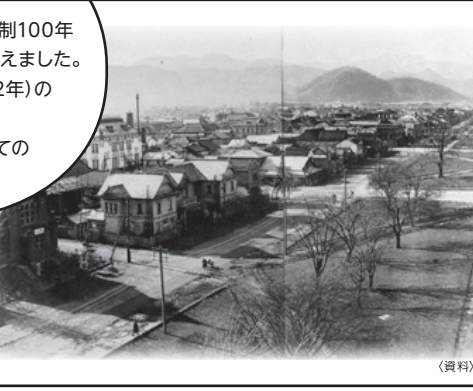
南区で太古の
化石が発見された
ジュゴンの仲間
「サッポロカイギュー」
の子孫



札幌市を取り巻く状況

札幌市は2022年に市制100年という大きな節目を迎えました。これは大正11年(1922年)の札幌市の写真です。この年、札幌は市としてのスタートをきりました。

当時の札幌市の人口は約12万人だったんだ。この100年で人口は約15倍も増え、北海道を代表する大都市になったんだね。



〈資料〉札幌市公文書館所蔵



〈資料〉札幌市交通局所蔵

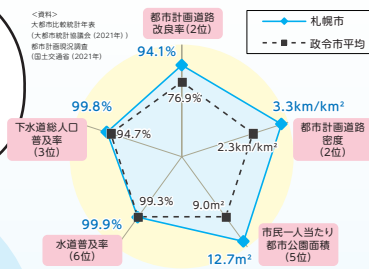


〈資料〉札幌市公文書館所蔵

その後、昭和47年(1972年)の冬季オリンピックを契機に、競技施設だけでなく、地下鉄や地下街などが次々と整備され、まちが大きく発展しました。



これまでのまちづくりの取組の結果、道路などのインフラは、他の政令市と比較しても高い水準にあるんだね!



また、市民アンケートでは96%の市民が「札幌の街が好き」と回答しています。(令和4年度第3回市民意識調査より)

地下鉄やJRなどの公共交通機関が整備されていること、緑が多く自然豊かな点が好きな理由として挙げられているんだね!

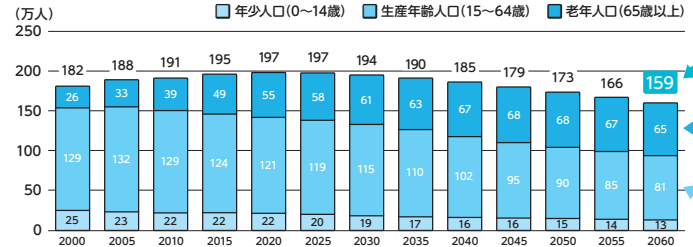
これまで社会資本整備の推進などのまちづくりを進めてきた結果、大きく発展を遂げてきた札幌のまちだけど、様々な課題も抱えているんだ。

次のページでは札幌市が抱えている課題を紹介するよ!

人口減少の局面へ

札幌市は、これまでほぼ一貫して人口増加を続け令和5年(2023年)10月1日時点の人口は197万人となっていますが、令和42年(2060年)には159万人まで人口が減少することが見込まれています。

札幌市の人口構造



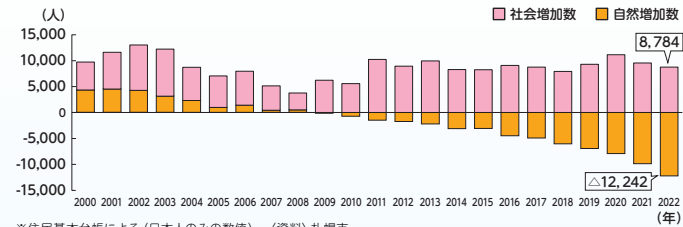
人口が約40万人減

人口の約4割が65歳以上の高齢者に

生産年齢人口は、人口の約5割に

※2000~2010年の総人口には年齢「不詳」を含む。2015、2020は「不詳補完値」による。〈資料〉総務省「国勢調査」、札幌市

札幌市の人口動態



社会増加 転入者数>転出者数
自然減少 死亡者数>出生数

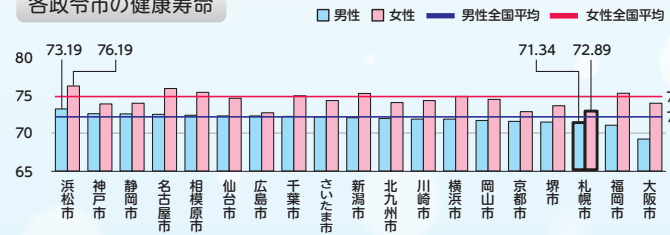
社会増加数が自然減少数を下回り、人口減少局面を迎えているんだね。

※住民基本台帳による(日本人のみの数値) 〈資料〉札幌市

平均寿命と健康寿命

札幌市の平均寿命は、2020年時点で男性が81.31歳、女性が87.40歳と年々延びてきています。健康寿命については、男性が71.34歳、女性が72.89歳と平均寿命と比較し男性が9.97年、女性が14.51年短く、また全国平均との比較でも低い水準にあり、健康寿命を平均寿命に近づけていく必要があります。

各政令市の健康寿命



政令市で比較しても、札幌は健康寿命が低い水準にあるんだね。

〈資料〉厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究(2016~2018年度)」

■平均寿命:人が生存する平均年数 ■健康寿命:健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

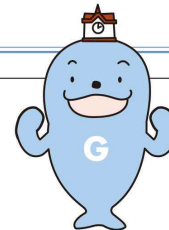
このような課題を踏まえつつ、誰もが安心して暮らし続けることができるまちを維持しながら、都市としての魅力をさらに高め、将来の世代に住み良いまちを引き継いでいくため、5年間のまちづくりの取組をまとめた「アクションプラン2023」を作成しました。

これからの札幌市のまちづくり



魅力的なこのまちを次の世代に引き継いでいくためには、持続可能なまちづくりを進めていながら、都市として価値を創造し、高めていくことが重要です。そこでアクションプラン2023では、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンで設定した「5つの分野横断プロジェクト」に関係が深い事業を関連付けて施策を実施することで、施政方針に掲げる2つの「未来のさっぽろ」の実現を目指します。

アクションプラン2023は、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンで掲げた目指すべき都市像やまちづくりの重要概念を踏まえて、まちづくりの取組を進めることで、2つの「未来のさっぽろ」だけではなく、「目指すべき都市像」の実現も目指していくんだね。



誰もが安心して暮らし
生涯現役として輝き続ける街

2つの「未来のさっぽろ」

世界都市としての魅力と
活力を創造し続ける街

目指すべき都市像

「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、
豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ

まちづくりの重要概念

ユニバーサル（共生）

誰もが互いにその個性や能力を認め合い、
多様性が強みとなる社会の実現

ウェルネス（健康）

誰もが生涯健康で、学び、
自分らしく活躍できる社会の実現！

スマート（快適・先端）

誰もが先端技術などにより快適に暮らし、
新たな価値の創出に挑戦できる社会の実現

アクションプラン2023

分野横断的に取り組む施策（プロジェクト）

ユニバーサル（共生）
プロジェクト

ウェルネス（健康）
プロジェクト

スマート（快適・先端）
プロジェクト①
(スマートシティ、人材・産業)

スマート（快適・先端）
プロジェクト②
(ゼロカーボン、雪)

人口減少緩和
プロジェクト

8つのまちづくりの分野ごとの事業

生活・暮らし

地域

子ども・若者

安全・安心

経済

スポーツ・文化

環境

都市空間

行財政運営の取組 まちづくりの取組を着実に、かつ、より効果的に推進していくための取組

①計画事業数
599事業

②計画事業費
1兆7,854億円

③計画期間
2023年度～
2027年度

次のページから、5つの分野横断プロジェクトごとに、計画期間内に取り組む主な事業などを紹介するよ！

分野横断プロジェクトの取組

5つの分野横断プロジェクトでは、プロジェクトごとに三本柱となる取組を掲げ、異なる分野間の連携を取りながら事業を進めていきます。

ここでは、5つの分野横断プロジェクトの施策の方向性、三本柱とそれに紐づく主な事業を紹介します。



ユニバーサル（共生）プロジェクト

障壁（バリア）を取り除くとともに、全ての人の利便性の向上に向けた取組の推進

施策の方向性

- 市民や企業と共にハード・ソフト両面での施策に加え、意識の改革に向けた施策を一体的に推進
- 年齢、性別、国籍、民族、障がいの有無等を問わず、「誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会」の実現を目指す

プロジェクトの三本柱と主な事業

1 誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設などの整備

移動経路の整備

安全・安心な道路環境の整備事業

歩道のバリアフリー化など、誰もが安心して通行できる道路環境整備等を実施します。



事業費 192億2,700万円

地下施設バリアフリー化推進事業

地下鉄駅のエレベーター等の更なる充実を図ります。



事業費 19億1,100万円

施設の整備

公共施設バリアフリー化促進事業

市有建築物のバリアフリー改修を実施します。



事業費 14億6,100万円

宿泊施設バリアフリー化推進事業

市内宿泊施設に対するバリアフリー改修に係る経費の補助などを実施します。



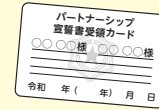
事業費 3億8,800万円

2 当事者への支援と情報発信の充実

制度の運用

性的マイノリティ支援事業

パートナーシップ宣誓制度や相談事業の運用、LGBTフレンドリー指標制度の登録促進等を実施します。



事業費 2,900万円

個別避難計画推進事業

災害時の避難に特に支援を要する方（避難行動要支援者）のうち、災害時のリスクが高いと考えられる方の個別避難計画の作成を推進します。

事業費 1,300万円

情報発信の充実

ユニバーサル推進事業

車いす等の移動に役立つバリアフリー経路情報の発信等を実施します。



事業費 6,300万円

交通施設計画推進事業

地下ネットワーク等における効果的なバリアフリー情報の提供等を実施します。



事業費 2億3,100万円

3 心のバリアフリーの浸透と誰もが自分らしく活躍できる環境の整備

意識の醸成

福祉のまちづくり推進事業

心のバリアフリーや合理的配慮等の普及啓発を実施します。

事業費 6,400万円

多文化共生推進事業

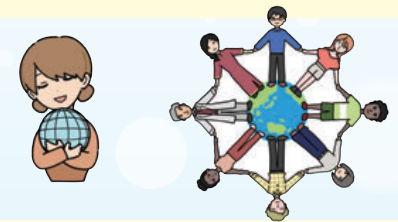
外国人市民の孤立防止と暮らしの不安解消を図るとともに、市民全体の異文化理解を促進します。

事業費 2億2,000万円

ユニバーサル推進事業

（仮称）共生社会推進条例の制定を目指します。

事業費 6,300万円



プロジェクトの推進による10年後の札幌市

- 市有施設や民間施設のバリアフリー化や四季を通じて円滑に移動できる交通環境の整備が進んでいます。
- 年齢、性別、国籍、民族、障がいの有無等に応じたサービスやバリアフリー情報の発信などのソフト面の支援が充実しています。
- 行政はもとより市民や企業に心のバリアフリーの考えが浸透して、多様性への理解が進み、誰もが暮らしやすいまちになっています。



※この冊子に記載している事業費は全て、5年間（2023年度から2027年度まで）の総額を掲載しています。

ウェルネス（健康）プロジェクト

生涯を通じた健康づくりや社会参加の場の充実に向けた取組の推進

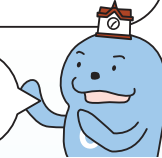
施策の方向性

- 健康寿命の延伸に向け、ソフト面(各世代における健康行動の促進)・ハード面(各地域における環境整備)の両側面から取組を推進
- 精神的に充実し、人生100年時代に生き生きと活躍するため、学びや就労、ボランティアなどの社会参加の場も充実
- 「誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会」の実現を目指す



健康寿命の延伸に向けて様々な取組を進めていくとともに、精神的にも充実し、誰もが自分らしく活躍できるような対策を行っていきます。

ウェルネス（健康）プロジェクトの取組を通じて、健康づくりや社会参加の場の充実を図っていきなだね。



プロジェクトの三本柱と主な事業

1 健康行動の促進 ～身体的な健康（ソフト面）～

ウェルネス推進事業

健康寿命延伸のため、企業や大学等との連携により、健康意識の向上や健康行動の変容を促す取組を実施します。

事業費 1億2,600万円



地域包括支援センター機能強化事業

全27か所の地域包括センターに1名ずつ専門員を配置し、高齢者のフレイル^(*)改善や認知症支援など、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに向けた体制を強化します。

※フレイル:年齢を重ねることにより体や心の働き・社会的なつながりが弱くなった状態



事業費 88億6,700万円

運動習慣等推進事業

生活習慣病予防のため、市民の身体活動量や歩行時間を増加させるなど運動習慣が身に着くよう、運動機会を提供します。



事業費 1億5,900万円

2 ウォーカブルシティの推進 ～身体的な健康（ハード面）～

歩きたくなるまちづくり推進事業

事業費 1,700万円

地域交流拠点等まちづくり推進事業

事業費 3,400万円

居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり推進事業

事業費 3,100万円

歩行を中心とした身体活動を促進するため、まちの将来像やその実現に向けた効果的な手法のガイドラインを策定するとともに、地域交流拠点や都心において民間開発への支援や歩行環境改善等を推進します。

都心部公園機能向上事業

事業費 6,100万円

公園の官民連携推進事業

事業費 7,400万円

都心部の公園に求められる施設整備・管理運営の検討のほか、公園内への利便施設整備に係る民間活力導入の検討や事業化を推進します。



3 人生100年時代の学びと社会参加の促進 ～精神的・社会的な健康～

次世代の活動の担い手育成事業

事業費 2,100万円

若者を対象にまちづくり活動への参加意欲向上に向けた取組や、若者団体が地域活動に参加するきっかけづくりのため、町内会とのマッチングを支援します。



札幌シニア大学運営事業

事業費 3,100万円

50歳以上の市民を対象に、学びの場として2年課程で系統的な学習と実践活動の講座を実施します。



プロジェクトの推進による10年後の札幌市

- 子ども、働く世代、高齢者などの世代に応じた健康づくり活動等のソフト面での支援が充実しており、生涯を通じて健康的で生き生きと活躍しています。
- 都心・地域交流拠点・住宅市街地のそれぞれの特性を生かした居心地が良く歩きたくなる空間の整備により、快適にまち歩きを楽しむことができています。
- 図書館などの学びに関する施設や機会が充実しており、誰もが生涯を通じて学び、自分の能力を生かして社会とつながりながら活躍しています。



スマート(快適・先端)プロジェクト① スマートシティの推進と人材育成・産業競争力の強化

施策の方向性

- 行政のデジタル改革と地域社会のデジタル改革を両輪で進め、生産年齢人口が減少する中でも社会課題の解決と地域社会の持続的な発展につなげ、市民生活の質を向上
- 市内産業の競争力の強化や、新たな価値を創出することができる人材の育成・定着を図る



今後、生産年齢人口が減少する中でも経済活動等を維持していくため、先端技術の活用により生産性を向上させていくなど、デジタル技術の活用や人材育成などに取り組んでいきます。

スマート(快適・先端)プロジェクト①の取組を通じて、デジタル社会の形成や、人材育成・産業競争力の強化を進めていくんだね。



プロジェクトの三本柱と主な事業

1 行政のデジタル改革

DX推進事業

行政課題のDXによる解決を推進するため、民間等のアイデアを活用する体制を構築するとともに、業務プロセスの見直しを支援します。



事業費 2億100万円

救急DX・搬送体制強化事業

救急隊を36隊に増強するとともに、救急需要予測による配置最適化や救急隊アプリの導入によるDX化などにより、市民がより速やかに適切な救急医療を受けられる搬送体制を整備します。



事業費 2億5,500万円

行政手続のオンライン化推進事業

オンライン申請可能な手続きの増加や、オンライン相談業務を実証実施します。



事業費 4,200万円

大型ごみ収集インターネット受付事業

事業費 7億8,600万円

税務手続のオンライン化事業

事業費 3,700万円

インターネットによる大型ごみの受付や、市税の口座振替申込のインターネット受付を導入します。

2 地域社会のデジタル改革

スマートシティ推進事業

高齢者を主とした地域住民を対象に、データ連携基盤を活用したデジタルサービスを提供すること等により、スマートシティを推進します。

事業費 5億7,900万円



働き方改革推進事業

テレワーク導入への補助等によりテレワークの拡充・定着を促進し、働き方改革を推進します。

事業費 5億7,700万円



3 人材育成・産業競争力の強化

教育・研究分野

高校改革推進事業

市立高等学校での数理・データサイエンス教育の推進やプログラミング等の情報教育を充実させます。

事業費 1億1,400万円

GIGAスクール構想推進事業

GIGAスクール構想にて整備した1人1台タブレット端末を活用した効果的な授業展開のため、ICT機器や教材の整備を推進します。

事業費 120億8,700万円

経済分野

バイオ企業等育成支援事業

成長が期待される健康福祉・医療関連企業の研究開発、産学連携やビジネス機会拡大等を促進するとともに、バイオベンチャー育成を支援します。

事業費 4億6,500万円



プロジェクトの推進による10年後の札幌市

- デジタルでの手続き等を希望する市民がオンライン上であらゆる行政手続を行えるようになっており、市民生活の利便性・快適性が向上しています。
- 官民データ連携が進み、多くの先進的サービスが創出されるとともに、企業のデジタル化が進むほか、競争力を高め、地域課題の解決に向けチャレンジしています。
- 子ども・若者は、ICT機器等の効果的な活用により情報活用能力が向上しているほか、豊かな語学力やコミュニケーション能力などを身に付け、様々な分野で国際的に活躍しているとともに、高校・大学では高度人材などの育成が進んでいます。



スマート(快適・先端)プロジェクト②

ゼロカーボンの推進と冬季の生活を維持し、雪を積極的に利活用する取組の推進

施策の方向性

- 脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入拡大などを推進し、2050年には札幌市内から排出される温室効果ガス排出量の実質ゼロ(ゼロカーボン)を目指す
- 雪との共生に向けた持続可能な除排雪や、スキー場の魅力向上等の雪の利活用に向けた取組を推進



脱炭素社会の実現に向けた取組を加速するとともに、札幌市が持つ「雪」という資源を最大限活用していきます。

スマート(快適・先端)プロジェクト②の取組を通じ、ゼロカーボンを進めるとともに、雪との共生・利活用を進めていくなだね。



プロジェクトの三本柱と主な事業

1 ゼロカーボンの推進

省エネルギー化の推進

学校施設照明器具LED化改修事業

事業費 93億8,700万円

地下鉄施設省エネルギー化推進事業

事業費 17億2,800万円

学校施設や地下鉄駅舎の照明のLED化を推進します。

住宅のエネルギー源転換実証事業

暖房や給湯機器のエネルギー源転換を進めるため、導入費用の補助を実施します。

事業費 7億100万円

製造業省エネ・カーボンニュートラル促進支援事業

中小製造業者に省エネ・脱炭素化に資する設備の導入経費等の補助を実施します。

事業費 3億7,600万円

再生可能エネルギーの利用促進

水素利活用促進事業

都心部に水素ステーションや集客交流施設などを備えた街区を整備するとともに、水素需要拡大に向けた実証を通じ水素エネルギーの利用を促進します。

事業費 39億5,300万円

市有施設・未利用地への太陽光発電設備導入事業

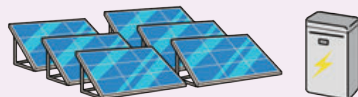
市有施設への太陽光発電設備の導入等を実施します。

事業費 5億6,800万円

事業者向け自家消費型太陽光発電導入支援事業

太陽光発電設備及び蓄電池の導入費用の補助を実施します。

事業費 2億9,600万円



GX投資推進

GX投資推進事業

北海道の再生可能エネルギーのポテンシャルを最大限に活用し、供給・需要の両面からGX投資を誘発するため、産学官金連携のコンソーシアムを設立し、GX産業の集積と金融機能の強化に向けた取組を推進します。



2 雪との共生

雪対策

大雪時に迅速かつ適切に対応する除排雪体制を確保するとともに、ICT活用による除排雪作業の効率化など持続可能な雪対策を推進します。

事業費 1,197億5,200万円



3 雪の利活用

スノーベストタウンSAPPORO促進事業

事業費 3,600万円

スノーリゾート推進事業

事業費 6億9,100万円

市内スキー場の魅力向上やスキー場と関連事業者の連携支援、冬季観光コンテンツの充実等を図るとともに、道内リゾートとの連携を深め、道内全体のブランド力を向上させます。



プロジェクトの推進による10年後の札幌市

- 市民や企業などが、新たなクリーンエネルギーである水素を利活用しているとともに、走行中に二酸化炭素を全く排出しない自動車を選択しています。
- 先端技術の活用などにより除排雪作業の更なる効率化・省力化が進み、持続可能な除排雪体制が確保され、安心して冬を過ごしています。
- ウインタースポーツや冬の文化芸術が多くの市民・観光客に親しまれているとともに、都市型スノーリゾートシティとしてのブランド化が進み、道内連携による北海道全体での「一大スノーリゾートエリア」としての世界的ブランドが確立しています。

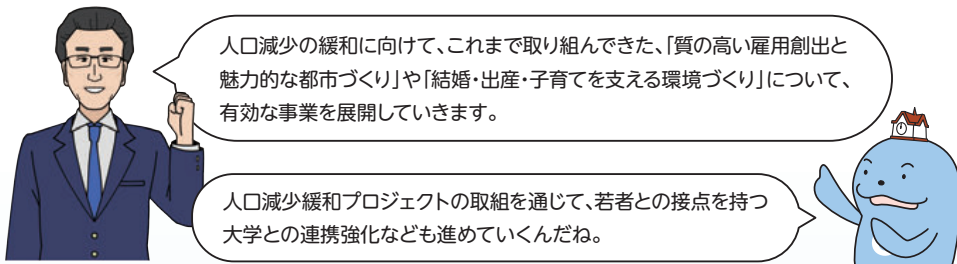


人口減少緩和プロジェクト

結婚や出産を望む市民の希望を実現するとともに、住み続けたいとなる取組の推進

施策の方向性

- 豊かで安定した暮らしに資する「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」や「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」に引き続き取り組むとともに、より若い世代へ向けたアプローチを強化
- 若者との接点を持つ札幌圏の各大学との連携強化や、将来的な地元定着などに向けた長期的な視点を踏まえた取組を推進



プロジェクトの三本柱と主な事業

1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

スタートアップ・エコシステム構築事業

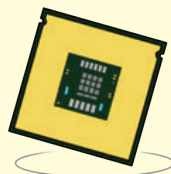
官民ファンドの組成等、各種取組により札幌・北海道発のスタートアップ企業を支援します。



事業費 22億5,600万円

半導体関連産業集積促進事業

半導体・デジタル関連企業や人材の集積促進を図るため、関連分野の人材育成に取り組むとともに、関連企業の拠点形成に向けた検討を実施します。



事業費 6,800万円

企業立地促進事業

本社機能の移転等の各種補助制度や魅力的な都市環境のPRなどにより、企業の立地や設備投資を促進します。

事業費 85億6,800万円



2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

子ども医療費助成事業

子育て支援環境の充実を図るため、子ども医療費助成の対象を高校3年生まで拡大します。

2024年4月から：

中学3年生まで

2025年4月から：

高校3年生まで



事業費 52億4,000万円

妊娠・出産包括支援事業

助産師等による育児に関する助言や休養の機会を提供する「産後ケア事業」について、2024年度から、産後1年未満の母とその乳児を対象にアウトリーチ型の支援を実施します。

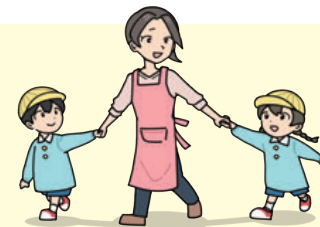


事業費 8億5,200万円

第2子以降の保育料無償化事業

2024年度から、第2子以降の保育料を、世帯の年収や兄弟姉妹の年齢差に関わらず無償化します。

※認可保育所、認定こども園(保育所部分)、地域型保育事業所が対象



事業費 15億2,000万円

3 若い世代へ向けたアプローチの強化

大学連携強化推進事業

大学を起点とした多様な主体との連携を促進するとともに、人口減少等の地域課題解決に向けた取組を推進します。



事業費 1億2,700万円

若者出会い創出事業

結婚を希望する若者への支援のため、オンラインの結婚支援センターを開設します。



事業費 1億2,900万円

プロジェクトの推進による10年後の札幌市

- 高度人材などの雇用の受け皿となる企業が成長しています。
- 結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援や保育サービス、家計負担の軽減に向けた支援が充実し、結婚、出産や子育てに関する市民の希望が実現しています。
- 若者がより一層札幌市の魅力・特色を感じています。



次のページでは、分野横断プロジェクトでは紹介できなかった都市基盤整備などの取組を紹介します！

その他 まちづくりの取組



ここでは分野横断プロジェクトにおける主な取組では紹介できなかった、都市基盤整備などの取組を中心に紹介します。

都心のリニューアルや学校施設の冷房設備の整備など、様々な取組を行っていきんだね。



都心のリニューアル

民間活力を活用した土地の高度利用や都市機能の更新を図るため、札幌駅・大通周辺地域の再開発事業等を推進します。

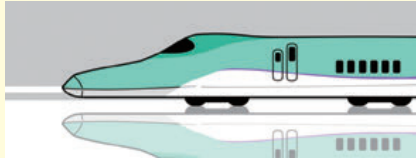
事業費 833億3,200万円



北海道新幹線関連事業

北海道新幹線の札幌延伸・開業の早期実現に向けて、円滑な事業推進のための協議・調整や、啓発・PR活動の実施等のほか、新幹線東改札口の整備を行っていきます。

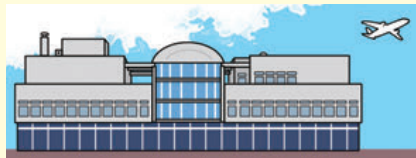
事業費 24億6,500万円



丘珠空港利活用推進事業

滑走路延伸を含む空港機能強化や空港周辺の賑わい創出等の取組の実施に向けた検討等、丘珠空港の利用を促進します。

事業費 3億8,600万円



スポーツ施設再整備事業

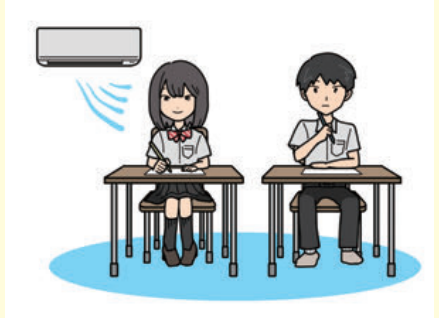
更新時期を迎える美香保体育館の更新や大倉山ジャンプ競技場の改修を行います。

事業費 93億6,900万円



学校施設冷房設備整備事業

子どもたちが夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境を確保するため、2027年度までに、市立幼稚園・学校の普通教室等に壁掛けエアコンを整備します。また、緊急対応として、2024年夏に間に合うよう、全ての保健室に壁掛けエアコンを整備するほか、移動式エアコンを約4,000室に設置します。



事業費 137億6,000万円

流通機能強化・販路拡大支援

新展示場（アクセスサッポロ後継施設）の整備により産業交流・販路拡大の機会の増進を図るとともに、大谷地流通業務団地を核とした流通機能を強化します。

事業費 269億5,200万円



ヒグマ・エゾシカ等野生動物対策の推進

ヒグマやエゾシカの出没対応、市街地への侵入抑制策の強化や鳥獣による農作物被害の低減に向けた対策を強化します。

事業費 3億5,100万円



救急医療体制整備・強化事業

救急医療体制を強化するため、休日・夜間の救急受入体制を整備するとともに、インフルエンザ等の流行期に臨時小児外来（ドライブスルー）を設置します。

事業費 99億1,300万円



次のページでは、地域の特性を活かした各区の取組を紹介します！

各区の取組

中央区 まち巡り魅力体感事業

キーワードラリーの周遊企画や、WEBサイト「まちのモトマップ」を活用した地域活動の紹介を通じて、中央区の地域資源に触れる機会を創出し、まちづくり活動へ参加者の増加を促します。



中央区マスコットキャラクター
中ウオーくん



北区 篠路出張所機能強化事業

保健福祉に係る窓口サービスを拡充した篠路出張所へのアクセス通路を整備することで、行政手続きのために誰もが来所しやすい環境をつくれます。



北区まちづくりキャラクター
ぼっぴい



東区 東区地域連携魅力創出・発信事業

タッピーフレンズ^(※)の連携を促し、東区ならではの魅力資源(特産品・サービス等)の企画・開発等を支援することにより、区の魅力強化と地域のにぎわい創出を図ります。



東区マスコット・キャラクター
タッピー



白石区 マスコットキャラクター活用による子どもの安全力を育む事業

子どもや親の防犯意識等の向上に向け、「えほん図書館」と連携し、区のマスコットキャラ「しろっぴー・くろっぴー」を主人公とした絵本やアニメーションを製作するとともに、これを使った読み聞かせ等の地域活動を促進します。

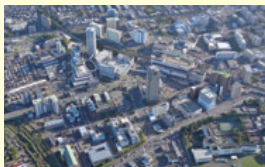


白石区マスコットキャラクター
しろっぴー&くろっぴー



厚別区 厚別副都心地区屋外案内板ユニバーサルデザイン化事業

大規模複合開発が行われた厚別副都心地区の更なる活性化を図るため、屋外案内板のユニバーサルデザイン化を行い、年齢の違いや障がいの有無等に関わらず全ての人が周遊しやすい環境を整備します。



厚別区マスコットキャラクター
ピカットくん



豊平区 とよひらスポーツ応援プロジェクト事業

スポーツによる健康で活力のある社会の実現に向けて、ラグビーやカーリングなどの各種スポーツの体験事業を実施することで、区民がスポーツに親しみきっかけとなる場を提供します。



豊平区キャラクター
こりん・めーたん



清田区 地域交流拠点におけるにぎわい創出

「きよたマルシェ」や「きよフェス」など地域の魅力を発信する取組を定着・発展させ、地域交流拠点である区役所周辺からにぎわいを生み、地域の魅力を広く発信する仕組みを構築することで、交流人口の増加を目指すとともに、定住人口の確保を図ります。



清田区マスコットキャラクター
きよっち



南区 若者の芸術・文化活動を通じた南区まちづくり事業

区ゆかりのアーティストや地域住民と連携したイベントの実施、区内大学研究室との共同事業を発展拡充させるとともに、若者を中心とした「南区サポーター制度」を構築し、これらの活動を支援することで地域の活性化を図ります。



定山温泉PR隊長
南区応援キャラクター



西区 西区環境まちづくり協議会を中心とした環境活動を支援

西区の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、「西区環境まちづくり協議会」の運営及び活動の支援を行うとともに、地域団体が主体的に取り組む環境活動を支援します。



西区環境キャラクター
さんかくやまべ



手稲区 手稲山を活用した魅力発信(手稲ふるさと創生事業)

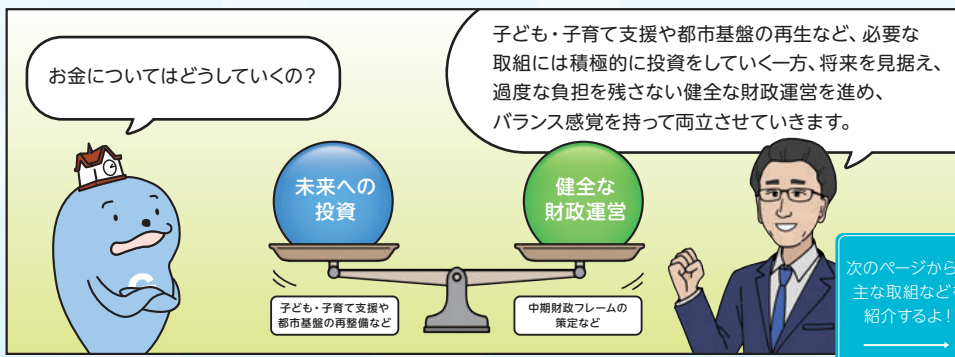
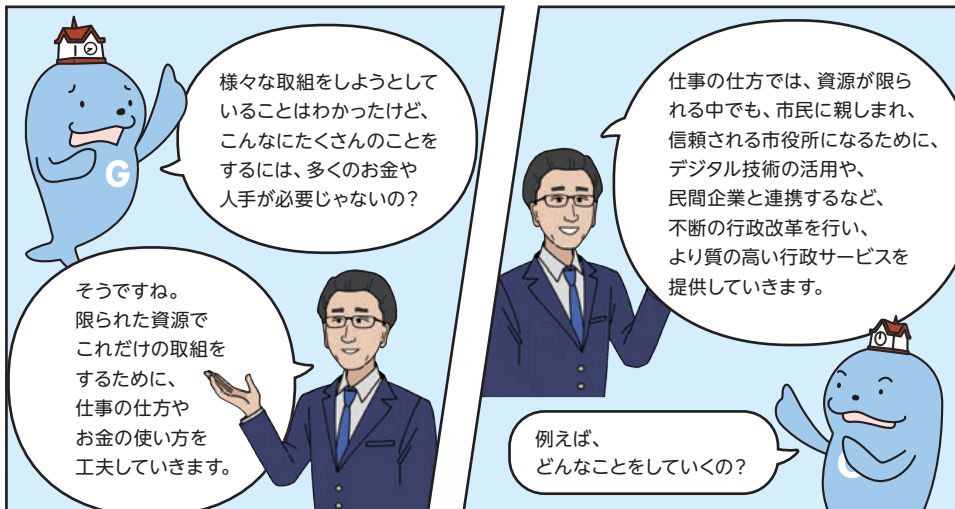
ていね山映画祭や手稲山ウォーキング、親子スキー教室など、区のシンボルである「手稲山」を活用したていねやまプロモーション事業をはじめ、区の魅力を発信する各種事業を行います。



手稲区マスコットキャラクター
ていぬ



行財政運営の取組 ～仕事の仕方、お金の使い方の工夫～



行政運営の主な取組

行政運営の目指す姿

市民のために、協働し、挑戦する市役所

行政運営の取組方針と主な取組

取組方針1 行政サービスの高度化

主な取組 行政手続のオンライン化の推進

各種申請や手続、相談の利便性の向上のため、行政手続のオンライン化の取組を加速させ、市役所等に来庁せずとも行政サービスが受けられる環境を整備します。

取組方針2 不断の行政改革の推進

主な取組 行政DXの実現に向けた業務改善の実施

市民起点による行政サービスの提供を行うため、行政DXの実現に向けた、抜本的な業務改善を実施します。

取組方針3 多様な主体による連携・協働の推進

主な取組 行政課題の解決に向けた官民連携の推進

行政課題の解決のため、民間企業の発想を活かす仕組み作りや、民間企業による市政への参画を推進していく取組を行います。

取組方針4 職員力と組織力の向上

主な取組 人材育成の推進と誰もが活躍できる職場環境の整備

多様化・複雑化する行政課題に迅速・的確に対応するため、人材育成の取組を推進し、職員力・専門性を向上させるとともに、テレワーク環境を拡大するなど、より柔軟で働きやすい職場環境の整備にも取り組みます。

行政手続のオンライン化などに積極的に取り組むんだね。

これらの取組を進めることで、「行政DXによる市民サービス向上の実現」「官民コラボによる質の高い行政運営の実現」「市民志向の職員育成・信頼される市役所」などを目指していきます。

次のページから、主な取組などを紹介するよ!

財政運営の主な取組

財政運営の目指す姿

将来を見据えたバランスを重視した財政運営

- 取組方針1 メリハリの効いた財政運営
- 取組方針2 持続可能な財政構造に向けた不断の見直し
- 取組方針3 将来世代に過度な負担を残さない健全な財政運営

具体的な取組

1 計画的な財政運営

中期財政フレームの策定

将来にわたって必要な行政サービスを続けられるように、5年間(令和5～9年度)のお金の集め方、使い方の計画である中期財政フレームに基づいて、計画的な財政運営を行っていきます。

2 歳入・歳出の改革

行政サービスの効率化

市役所の役割や仕事内容を見直し、よりよい仕組みや方法づくりを進めていきます。

3 財政基盤の強化

国内外から「ひと」を呼び込む施策の展開

札幌市の良いところを生かして新たな価値を創造し、積極的に国内外から「ひと」を呼び込むことで、「まち」の活力を維持・向上させていきます。

4 財政規律の堅持

市債や基金の適切な管理

将来世代に過度な負担を残さないように、市債残高を適正に管理します。また、市の貯金である財政調整基金が減りすぎないように、収入と支出のバランスを調整します。

持続可能な財政運営に向けて

これから先、生産年齢人口が減ることにより、市税収入などが減っていくことが予想されています。このような中で、今と同じレベルの行政サービスを続けていくことや、公共施設の維持・更新をしていくことはとても大変です。そのため、以下のような取組を進めていきます。

「事業見直しサイクル」の確立

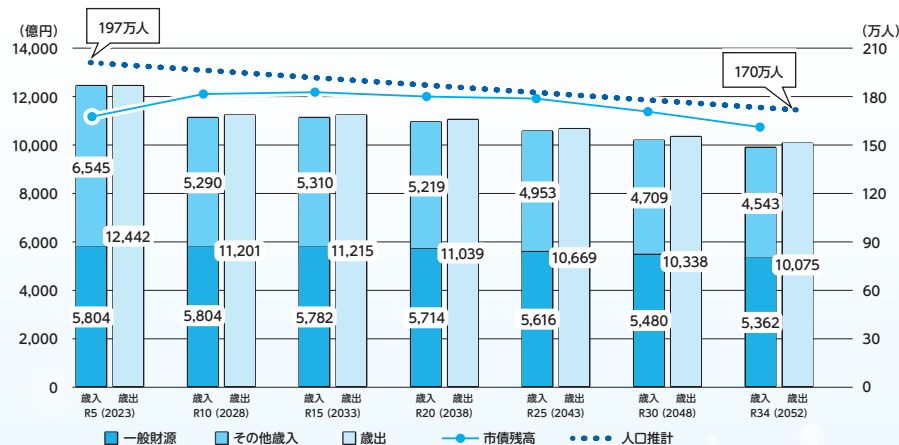
毎年度の予算を決める際に、誰が見ても事業の達成度がわかるような目標を設定し、その達成度に応じて事業の進め方や手法を改めて考え直す「事業見直しサイクル」を確立します。

持続可能な施策の在り方の検討

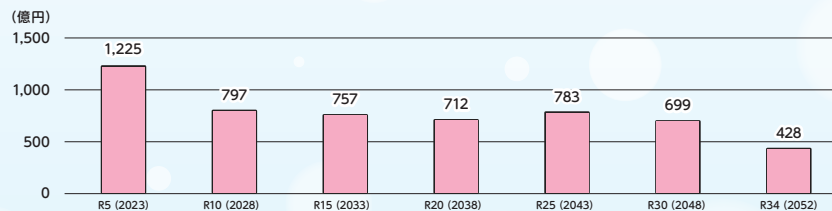
将来にわたって市民が安心して暮らせるように、人口や社会の状況など、時代の変化に応じて市民サービスを維持・向上させていく一方で、事業や施設の縮小・廃止も含めた見直しを進めていきます。

将来を見据えて、持続可能な施策の在り方をより長期的な視点で検討していきます。

30年間の財政見通し



基金残高推移



「今」だけでなく「将来」のことも考えることが大事なんだね。

みんなが大人になった時にも、世界に誇ることができる札幌市にいるために、今できることにしっかりと取り組んでいくよ。

市の貯金(財政調整基金など)が残っていれば、将来も安心だね。

そのための取組を、全庁一丸となって進めていくよ。

おわりに

2022年、私たちのまち・札幌は、市制施行100年という節目を迎えました。これまでの100年間、先人たちの努力によって、様々な時代の変化や困難を乗り越えながら成長を続け、今や197万人を擁する大都市へと発展しました。

人口減少の局面を迎えているなか、今後もこの豊かな札幌を、次の世代へ、さらにその先へと持続可能な形で引き継いでいかなければなりません。

札幌が次の100年も魅力と活力を創造し続けるまちであることを目指し、引き続き、市民の皆さまとともにまちづくりに取り組んでまいります。

今後とも、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

札幌市長 秋元 克広

問い合わせ先

■ 計画書全体(行財政運営の取組を除く)

札幌市まちづくり政策局
政策企画部政策調整課

☎ 011-211-2206 FAX 011-218-5109 ✉ chosei@city.sapporo.jp

■ 行財政運営の取組について

【 行政運営の取組 】

札幌市総務局改革推進室推進課

☎ 011-211-2061 FAX 011-218-5194 ✉ kaikaku@city.sapporo.jp

【 財政運営の取組 】

札幌市財政局財政部財政課

☎ 011-211-2212 FAX 011-218-5147 ✉ zaisei@city.sapporo.jp

札幌市のホームページで第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2023を公表しています

<https://www.city.sapporo.jp/chosei/actionplan2023.html>

